「歴史修正主義」　2023年09月11日

「歴史修正主義」は、歴史的事実の全面的な否定や意図的な歪曲化、また、特定の側面のみの誇張、政治的な意図を持った歴史の書き換えなどを指し、否定的な意味合いをもって用いられている言葉である。

日本においては「南京大虐殺」はなかったという主張がある。虐殺された人数につては、色々な説があるが、当時の報道、写真、中国人の証言などを見れば、南京大虐殺はなかったとは言うことはできない。また「従軍慰安婦」は商売としてやったことで、国とは関係ないという人々もいる。様々な資料、慰安婦にされた女性たちの証言などから、その主張は説得力を持ち得ない。関東大地震から百年目の今年は、地震の規模や被害と共に、朝鮮人への無法な虐殺が大きく多く取り上げられていた。朝鮮人虐殺を生み出したのは日本国民の不安と恐れではないかと私は思っている。日頃から、いじめ、差別している朝鮮人たちは地震の混乱時にその怒りを日本人に向けるだろうと恐れ、民衆は彼らが暴動を起こすというまことしやかな流言を受け入れ、虐殺に至ったのではないか。この事実を無視したい人々もいる。松野博一官房長官は「政府内において事実関係を把握する記録が見当たらない（「東京新聞」8月31日朝刊掲載）」と言い、虐殺の事実を認めていない。最近、太平洋戦争はヨーロッパの植民地支配からのアジアの解放の戦いであったと、戦時中の言説をそのまま言う人々がいると聞き、驚いてしまった。アジア諸国で2000万人以上の人の命を奪った事実をどのように見ているのか。人命が悲惨に失われ、人権が全く否定された歴史的出来事を認めず、自分に都合よく、歴史を修正、改ざんする人々は後を絶たない。

中国で、1989年に「天安門事件」が起こった。中国政府は、共産党支配を貫徹するために、民主化を求める学生、労働者たちを武力で強引に抑え込んだ事件である。犠牲者数については、様々な報道がある。中国の歴史の中で、痛ましい事件として記憶されるであろうが、中国政府は「天安門事件」がなかったかのように、この日の出来事を無視し続け、この日に犠牲者を追悼することを許さない。これに抗議して、外国に逃れた人々は、追悼することを忘れていない。香港では、毎年追悼式典が行われていたが、中国政府は、式典をすることを許さないとしている。習近平国家主席は、共産党支配の名の下に、自分の意思を貫徹しようとしているのではないか。国民の自由な言葉と行動を強権的に奪っている。歴史に対する敬意はなく、どのようにも改ざんできると思っているらしい。

旧ソ連時代の1940年、ポーランドの軍人や指導者ら2万2000人が「カチンの森」で虐殺された。ソ連は「ナチスの犯行」と言っていたが、ナチス侵攻前の事件と判明し、1990年ゴルバチョフ元首相はソ連軍の犯行と認めた。このニュースを聞いた時、ソ連は変わったという印象を受けた。ところが、ウクライナ侵攻から1年余りが経過した今年の4月、国営ロシア通信は「カチンの森」虐殺は、1941年に起きた事件で、殺害したのはヒトラー部隊で、ソ連ではないと報道し、見解を一転させた。記事には「ナチスが自らの犯行をソ連がやったように見せかけた」と断定している。更に、ウクライナのブチャで多数の市民の遺体が見つかったが、これも「ウクライナや米欧がロシアの犯行に見せようとして住民を殺害した」との見解を展開している（「東京新聞」8月30日夕刊）。」ここまで歴史を修正、改ざんするほど、ロシア政府は追い込まれているということであろうか。

犯した過ちを認めることは、大きな痛みを伴うが、和解を生み出し、将来の共生を可能にしていく。歴史的事実の修正、歪曲、改ざんは、自らの精神を腐らせ、退廃に向かう。ヴァイツゼッカーの「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目になる」は真実である。